

令和元年度第41回卒業証書授与式 式辞

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う様々な対応策が講じられている中、第41回卒業証書授与式は卒業生の皆さんと教職員による規模を縮小したかたちで執り行うこととなりました。御来賓や保護者の皆様と、この時、この場をともにして、卒業をお祝いすることはできませんでしたが、皆さんへの祝意は変わるものではありません。御臨席を賜ることができなかった皆様の想いも込めて式辞を述べさせていただきます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました308名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、本校入学以来、勉学や部活動など学校生活に真摯に取り組み、今日の日を迎えることができました。この卒業は、皆さんの努力の賜ではありますが、三年間温かい愛情を持って励まし支えていただきました御家族、苦楽をともに乗り越えてきた友人、熱心に指導いただいた先生方、そして多くの方々から御支援をいただいた結果でもあります。どうか、感謝の気持ちを忘れないでください。

さて、人生百年時代を歩み始める皆さんの道程は、決して平坦ではなく、急峻な山道をはじめ変化に富んだ様々な道が待ち構えています。これからの歩みは、一步を踏み出すごとに小さな経験を積み、無形の財産となって皆さんの人生を支える太い幹へと成長していきます。

そこで大切になってくることは、どのような歩み方をしていくかです。仮に、安易な方法で一過性の成功や満足感を得る、という歩みを重ねてしまえば、険しい山道に差し掛かったとき、歩みを進める勇気が持てずに立ちすくむ、あるいは座り込んでしまう可能性もあります。

どのような方法で、どのような速度で、人生を歩んでいくのかを選択する決定権は皆さん自身にあります。どうか、目の前にある結果に拘らず、失敗を恐れることなく、自ら進んでいく道を力強く歩み続けてください。

本校を翔び立つ皆さんに、相田みつをさんの「負ける練習」という詩の一節を贈ります。

柔道の基本は受身 受身とは投げ飛ばされる練習

人の前で叩きつけられる練習 人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です

つまり、人の前で失敗したり、恥をさらしたりする練習です

自分のカッコの悪さを 多くの人の前で ぶざまにさらけ出す練習 それが受身です
と始まり、次のように締めくくられていきます。

若者よ 頭と体がやわらかいうちに 受身をうんと習っておけ

受身さえ身につけておけば何回失敗しても すぐに立ち直ることができるから

別れの時が近づいてきました。人生とは前に進む運動です。過去はもう通り過ぎた道であり、過去に拘ってはい前には進むことができません。皆さんは素晴らしい。自信を持って人生を歩み続けてください。308名の皆さんの前途が光り輝くことを心から祈念し、式辞といたします。

令和2年3月11日

埼玉県立杉戸高等学校長 杉浦 正和